

ボールの特性レポート

BALL REPORT



| | | | | | |
|------|----------|-----|-------|-----------------------|-----------|
| ボール名 | スマック・ダウン | 投球者 | 徳江 和則 | センター | 平和島スターボウル |
| RG | 2.510 | △RG | 0.053 | ●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール | |

テストボール：スマック・ダウン

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：ハウ

フレアーの幅 インチ

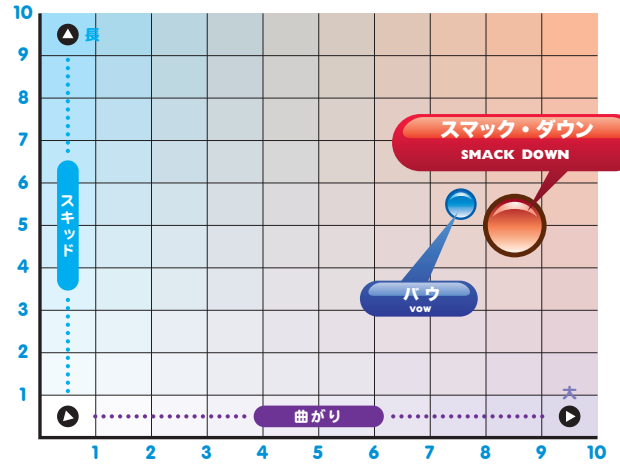
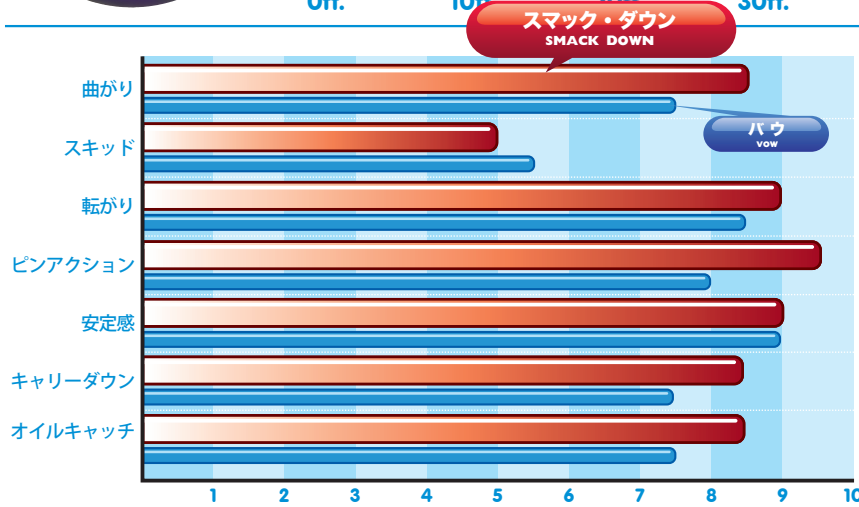
PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



ボールの評価

新生第一弾で発売された先月のDisruptionは、今までのコロンビア社になかった切れ味を前面に出し、Mid Performanceで領域を凌駕する攻撃的なリアクションを發揮しました。そして 続く新生コロンビア第2弾はUpper Mid Performanceで最強とも言える、発売前から評価の高いSmack Downの発売です。コロンビア社開発マネージャーが来日してテスターミーティングが行われましたが、その時に届いたボールがDisruptionとSmack Downでした。私の中のイメージではDisruptionがOmen、Oath、Vowに続くUpper Mid Performanceで、Smack DownがEnigma等の後継のHigh Performanceだと感じていたのです。実際はDisruptionはMid PerformanceでSmack DownはUpper Mid Performanceだったのですが、「そう感じてしまうほど」このSmack Downの性能は高く感じました。

Omen、Oath、Vowで使用した”Bend-It”カバーストックは、”Bring-It Hybrid”カバーストックへとより高位になり、新開発された”SD Medium Rg Core”と連動することで、High Performance級のミッドエリアでの安定感と曲がりの強さを感じて頂く事ができるでしょう。さらに特筆すべきことはピンアクションで、柔らかく低く飛ぶイメージは、歴代コロンビアの中でも5本の指に入るぐらいの良さで、薄めのかき回すアクションが多く見受けられます。そう感じてしまうポケット幅に広さを感じてしまうのも、このSmack Downの良さであるといえるでしょう。

マーキングを変更して、DisruptionとこのSmack Downで性能も明らかな違いとして魅せた新生コロンビア。

新たなる取り組みも始まっているコロンビア社からこの先目は離せません。

特記事項

Upper Mid Performanceを飛躍させたBring-It Hybrid カバーストックとネジレを持続させるSD Medium Rg Core との組み合わせのSmack Down。曲がりの安定感と強さ、ピンアクションまで仕上がりの高さは必見です。